

平成24年度

大阪市下水道科学館のイベント情報

下水道の役割やしぐみを「見て学べる」大阪市下水道科学館では、さまざまなイベントを予定しています。



「こどもの日」の集い

日時／5月5日(土)
人形劇や下水道クイズ、ダーツゲームなど
(一部定員あり)

科学館まつり

日時／6月10日(日)
水質実験教室や下水道クイズなどで、楽しみながら学べます(一部定員あり)

「防災展」(豪雨・台風に備えて)

日時／9月4日(火)
豪雨や台風などに備える防災について展示します

休日スクール

日時／10月28日(日)
定員／小学生と保護者30人
下水道について楽しく学びます。事前申し込みが必要です

※詳しい内容等につきましては、ホームページもしくは電話にてご確認ください。
※このほかにも、大阪市下水道科学館ではさまざまなイベントを予定しています。

大阪市下水道科学館

検索



- ◆所在地 〒554-0001 大阪市此花区高見1丁目2番53号
- ◆電話 06-6466-3170
- ◆FAX 06-6466-3165
- ◆開館時間 午前9時30分～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
- ◆休館日 毎週月曜日(月曜が休日の場合は翌日、年末年始)
- ◆入館無料 ◆無料駐車場あり
- ◆大阪市下水道科学館ホームページアドレス
<http://www.city-osaka-sewerage-museum.or.jp/>

アクセス

- ◆阪神電鉄「淀川」下車 徒歩約7分
- ◆地下鉄「野田阪神駅」下車 徒歩約15分
- ◆JR西九条駅からバス82号「高見一丁目」下車すぐ

Merとは

「Mer(メール)」とはフランス語で「海」を意味する言葉。命を育んだ海と、メッセージを伝える「メール(Mail)」の音を重ねています。この冊子では、これからも水という大切で身近な存在を通して、私たちの暮らしと未来について考えていきます。

人と地球のうろおいマガジン・メール2012年3月号

発行 財団法人 都市技術センター

〒541-0055 大阪市中央区船場中央2丁目2番5号-206

船場センタービル5号館2階

TEL 06-4963-2056

<http://www.uitech.jp/>

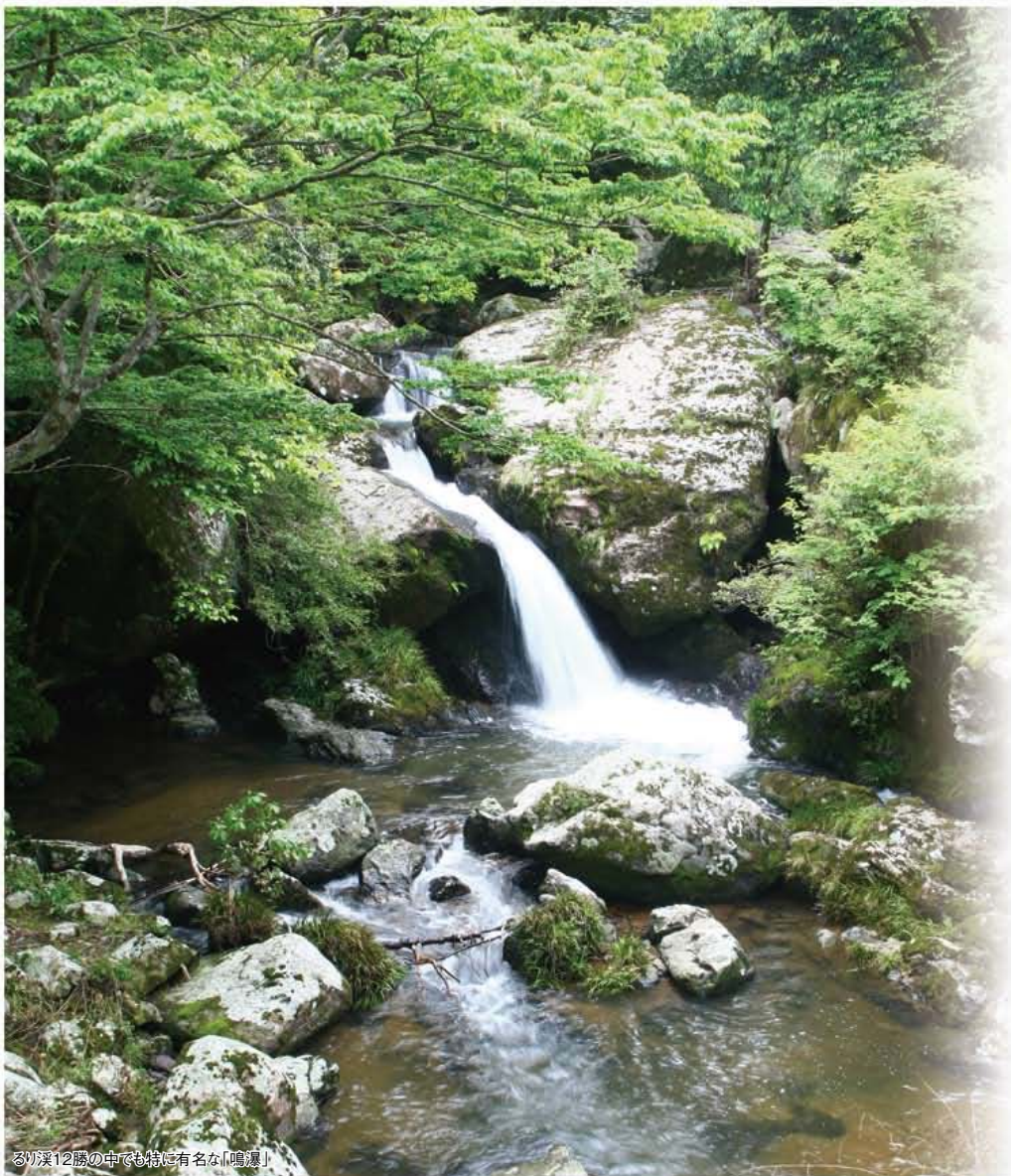


清流紀行	P02
「りり溪」(南丹市)	
ガイアの瞳	P04
「人を、まちを元気にするとんぼりリバーウォーク」	
水人之交	P08
「酒造りで栄えた文化の町」(伊丹市)	
大阪府内の下水道情報	P12
センターだより	P14

清流紀行

機織りや琴の音を演出する
清冽な溪流

るり溪(南丹市)

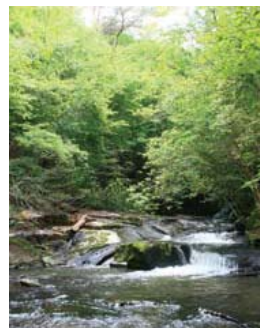


るり溪12勝の中でも特に有名な「鳴瀧」

京都府の真ん中あたりに位置する南丹市園部町。南は大阪府、西は兵庫県と接しており、古くから交通の要所とされてきました。町内には大堰川の支流である園部川が流れており、上流には起伏の緩やかな高原状の山地にできた浸食谷「るり溪」があります。

江戸時代には園部藩主がよく探勝したと伝わっています。当時は「滑」、「滑石」、「滑溪」などと書かれて「なめら」と呼ばれていましたが、明治に入り、この地を訪れた船井郡長があまりの美しさに感動して「るり溪」と命名したといわれています。ちなみに「るり」とは、紫を帯びた紺色の宝石のこと。人の手が及んでいない神秘的な自然を宝石に例えたものと思われます。現在、るり溪は国の名勝地に指定されており、上流部にある人工湖「通天湖」から流れる清流沿いの約4kmの散策路を歩けば、園部藩主や名付け親となった船井郡長を魅了した自然を堪能することができます。

るり溪には大小さまざまな滝や奇岩・巨岩が点在し、中でも「玉走盤」や「双龍淵」といった特徴的な名前が付けられた「るり溪十二勝」を形成。兩岸の広葉樹やアカマツなどの四季折々の色彩とともに、すばらしい景観を形成しています。また、天然記念物のオオサンショウウオが住む、清冽な溪流の音は機織りや琴のように聞こえ、野鳥のさえずり、虫の音と削り出す音風景は、環境省の「残したい日本の音風景100選」にも選ばれています。



散策路からは大小さまざまな岩や滝が楽しめます

春は新緑、秋には紅葉が美しく、標高500mにあるため夏は涼を感じることもできます。るり溪の魅力を余すことなく知るために、1度だけでなく、何度でも訪れてほしい場所です。



場所 / 京都府南丹市園部町
アクセス / 京都縦貫道八木西ICから車で約20分

「関西の清流」募集!
紙面に掲載希望の清流を募集します。詳しくは15ページをご覧ください。

ガアの瞳

人を、まちを元気にする とんぼりリバーウォーク

古くから八百八橋と呼ばれるほど多くの橋が架かっていたことから分かるように、大阪に開削された堀川が縦横無尽にありました。川とともに生きてきた大阪人にとって、水辺は特別な場所。現在も「とんぼりリバーウォーク」といった取り組みが行われるなど、新しい都市景観や産業、文化を創造し続けています。

道頓堀川の夜景
多層の山面に映る美しい夜景を阻害しないように、遊歩道の照明を低い位置に設定しています

ミナミに残された公共空間に活気を

人情味あふれる「なにわ風情」と食い倒れの街・大阪ミナミ。中でも道頓堀川周辺は大阪のシンボリックな景観として全国でも有名で、川沿いの華やかな夜景を目当てに多くの観光客が訪れています。しかし、道頓堀川自体に目を向けられることは少なく、注目を浴びるのは阪神タイガースが優勝した際に、人々が川に飛び込むシーンといった状況でした。

豊臣秀吉が大坂城築城に伴って東横堀川を造って以来、大阪は水運を活かした都市として発展してきました。江戸時代には全国の藩が大坂に蔵屋敷を設けたことから、「天下の台所」として名を馳せたことは有名です。大阪の人々は、縦横無尽に張り巡らされた堀川に囲まれて暮らし、渡船や浪華八百八橋と表現されるほどに架けられた多くの橋を利用しました。このような水辺に近い暮らしの中で、大阪の町人文化は育まれてきたのです。

安井道頓とそのいところによって造られた道頓堀川も、大阪に住む人々の暮らしと文化を支えてきました。元々は船による物資輸送路や田畑の灌漑用水に利用するためのものでしたが、いつしか歌舞伎の中座、角座、浪花



大正時代の戎橋



昭和初期の道頓堀川と戎橋

座、人形浄瑠璃の竹本座や豊竹座などが集積した劇場街として栄えるようになり、道頓堀川は面白いだけではなく、娯楽を楽しむ地域の軸として発展してきました。

戦後のモータリゼーションの進展により、西横堀川や長堀川など多くの堀川が埋め立てられ、川や水辺の空間は人々の日常生活から遠い存在になりました。幸い道頓堀川は水運という本来の役割が失われても、大阪を代表するミナミの繁華街の中心として残りました。しかし、治水対策のために護岸の嵩上げが行われたことで、橋の上や川沿いの店舗からしか見ることができなくなり、さらに水質の悪化などもあり、次第に「近づきたい川」になってしまいました。

このような中、大阪市では平成7年度から「道頓堀川水辺整備事業」を実施。水の都・大阪のイメージを取り戻し、新たな水辺の賑わい空間を創出しようとしています。

賑わいづくりを支える水門整備

人と川が近い快適な空間の創出には、安全性の確保と水質の改善が必要です。そこで大阪市では、水辺空間づくりに先立ち、①河川浄化、②水位の制御、③閘門機能、④防潮機能を備えた道頓堀川水門と東横堀川水門の整備を行いました。

東横堀川を経て流れてくる道頓堀川の水は、基本的に大川(旧淀川)と寝屋川の水です。しかし、これらの河川は潮の干満によって水位が変動するため、満潮時には潮の押し上げによって寝屋川の水は流下しにくくなるという特徴があります。道頓堀川水門と東横堀川水門では、この自然メカニズムを利用した水門操作により、寝屋川からの水の流入を阻止し、水質の良好な大川の水を導入するようにしています。大阪市建設局河川課の大島さんは「水質面からの管理だけでなく、水門を利用して道頓堀川の水位もコントロールしています。両水門間の水位を一定の範囲に制御できたことが、水辺近くの遊歩道を実現可能にしました」と話します。道頓堀川の水位はOP(※)+1.70m~+2.10mに対して、遊歩道はOP+2.35m~2.50mとなっており、川に近い高さでの散策を重視した空間を生み出すことができました。ちなみに台風の高水が予想される場合は事前に水位を下げて備え、ゲリラ豪雨といった突然の大雨に対しては遊歩道の閉鎖を行うなど、安全面に考慮したルールも作られています。



とんぼりリバーウォークの構造

また、両水門には大雨や高潮から市街地を守る防潮機能のほか、水門の内外で水位が異なる場合でも船が通過できる閘門機能も備えています。これは2つの閘門によって仕切られた閘室の水位を上下させて船を通過させるというもので、道頓堀川水門と東横堀川水門では、約5~10分で通過ができます。この機能によって大川や木津川からの船の運行が可能となりました。

※OP=Osaka Peilの略。大阪湾の最も低い潮位を基準にした高さ

親水性の高い水辺空間「とんぼりリバーウォーク」

平成16年12月、戎橋から太左衛門橋間の遊歩道が供用開始されました。片側約8m、上下2段構造の遊歩道は、それまでとは違った川の風景を実現。護岸の耐震補強も行われました。愛称については募集が行われ、1004作品の中から「とんぼりリバーウォーク」に決定。シンプルな名称で川沿いの遊歩道であることが容易にイメージできることが評価されました。

本来、河川敷内ではイベントなどの実施は法令で禁止されていますが、大阪ミナミの活性化を目指す「とんぼりリバーウォーク」においては、河川管理者である大阪府が、規制緩和を図る国土交通省からの提案を受諾。一定の条件下ではあるものの、社会実験として河川敷地でのイベントや物販行為の利用が認められました。

規制緩和によって河川敷地での多様な利用が可能になったとんぼりリバーウォークでは、道頓堀川周辺のさらなる賑わいの創出や集客効果を高めるための、さま

閘門機能

1. 船が入るとき



- 船が 門内に入ります
- 上流側の 門は閉じています

2. 船が出るとき



- 下流側の 門を閉め注水します
- 上流側と水位が揃えば上流側の 門を開け、船を通します



東横堀川水門



道頓堀川水門



さまざまなイベントが開催されるようになりました。イベントはルールに基づけば誰でも開催可能で、3カ月前から申し込みを受け付ける形式。これまでも今宮戎神社「十日戎」宝恵駕行列の出発式・手箱式や、映画「レッドクリフ」Part2の完成記念プレミアイベント、24時間テレビチャリティーイベント、ミナミジャズウォークなど、地元商店会やNPOによる祭事のイベントだけでなく一般企業によるPRやオープニングイベントに使用されました。また、難波八阪神社船渡御行事では、以前は橋の上からしか見ることが出来なかった船を、遊歩道から間近に楽しめるようになりました。その他にも、販売促進イベントや一般街頭キャンペーン、音楽ライブ、ダンスパフォーマンス、フリーマーケットが開催され、ミナミに新しい賑わいを創出しました。

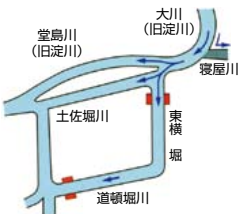
さらに露店などによる物販行為が可能になったことで、多くの人が大阪の名物たこ焼きなどを食べながら道頓堀川沿いを歩くという新しい光景も誕生。船着場でチケットを買えば、道頓堀川や大川などを遊覧でき、大阪らしい賑やかな街なみと美しい水辺の景観を楽しむようになりました。

社会実験が始まって7年が過ぎ、今やとんぼりリバーウォークは、観光ルートの中でも欠かせないスポットへと

水門操作による河川浄化

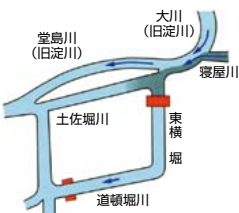
1. 満潮時前後

- 水位が潮汐変化に伴い上昇する満ち潮時に各河川の水門を開放
- 満ち潮時は、寝屋川からの河川水の流入が潮汐変化に伴い阻止される



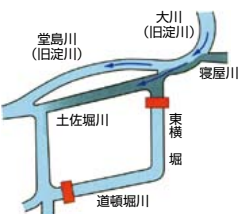
2. 引き潮時

- 引き潮時にかかる時に、東横堀川水門を閉め、寝屋川からの河川水の流入を阻止する
- ※引き潮時は、寝屋川からの河川水が下流へ流下



3. 引き潮時

- (水位が基準水位以下に低下時)
- 引き潮時に、河川内水位が基準水位（通常はOP+1.70m）を下回らないように道頓堀川水門を閉鎖



道頓堀川ガーデンカフェ



とんぼりリバースペースイリュージョン

成長しました。

水都・大阪の復活へ

スタイリッシュで最先端を行きキタや、テーマパークやアミューズメントが備わったベイエリア、下町情緒を色濃く残す天王寺・新世界など、大阪には魅力的なエリアが多数あります。しかし、かつて水の都と称された大阪をイメージさせるコンテンツは僅かで、市民の足として活躍した渡船場も最盛期の31か所から12か所まで減少しています。それだけに、水辺で育まれた活気を取り戻そうとする、とんぼりリバーウォークの取り組みには、多くの人が期待しています。

また、大阪市では2008年から水の都・大阪の復興を広く伝えるためのシンボルイベント「水都大阪」を開催しています。この水都大阪では、堂島川・土佐堀川・木津川・道頓堀川・東横堀川を使った口の字型の「水の回廊」を活かした取り組みを実施。最近ではクルージングのために道頓堀川水門と東横堀川水門を通過する船舶数も増加しており、湊町船着き場では約3,000せき、太左衛門橋船着き場においては5,000せきを超える利用実績が出て



難波八阪神社船渡御

います。

とんぼりリバーウォークでは、かつて川に背を向けていた両岸の店舗も出入り口を設け、水辺との一体感が高まっています。遊歩道は今後も拡張されていく予定で、立体広場と音楽ホールから構成されている湊町リバープレイスとの一体化により、さらなる発展も期待されています。水質面においても、10年に1度の大雨でも汚水が道頓堀川や東横堀川に流出しない「平成の太閤下水」が完成すれば、道頓堀川の水質はさらに改善すると期待されています（13ページに関連記事）。大島さんも「道頓堀といえば大阪の中心で、全国的にも有名な場所。ハードの整備はもうすぐ完成しますので、次は船やイベントなどソフトの部分工夫を、とんぼりリバーウォークの良さを生かしてほしい」と語ります。

近づきたい川から、賑わいと憩いの空間への変身。とんぼりリバーウォークの将来から目が離せません。



湊町リバープレイス

水と交 すいじんのまじわり

酒造りで栄えた文化の町

(兵庫県伊丹市)

東に猪名川、西に武庫川、北に長尾山系、南に尼崎の海が広がる自然に恵まれた伊丹の地には、かつて平安時代の巨瀬金岡と平清盛の時代に、2度の遷都話が持ち上がりました。どちらも実現はしませんでした。豊かな水を生かし、江戸時代には清酒発祥の地として栄えました。

旧岡田家住宅



旧岡田家住宅・酒蔵は、国の重要文化財に指定されています



伊丹を囲む自然



長寿蔵ブルワリーミュージアムに展示されている江戸時代の酒造り道具



豊かな水環境が育てた、伊丹の酒

猪名川と武庫川に挟まれた伊丹の地は、昔から猪名川水系の地下水が豊富でした。天正2年(1574年)、織田信長の武将荒木村重が築いた有岡城は、城とともに

城下町も堀と土塁で囲んだ惣構えで、城下町にあるたくさんの方井戸から水を確保できたため長期間の籠城が可能だったと言われています。有岡城は天正7年(1579年)に落城し廃城となりましたが、井戸は現在も残っており、江戸時代には酒造りに利用されました。

豪商鴻池家の始祖で山中鹿之介の長男新六幸元が、伊丹の鴻池に土着し、慶長5年(1600年)に清酒の醸造に成功したと言われており、鴻池中北の児童公園には清酒発祥の地を伝える「鴻池稲荷祠碑」が残されています。木灰清澄法と木綿布ろ過を組み合わせ、それまでの濁り酒からまるやかな辛口の清酒が誕生したそうです。また、「主人に怒られた下男が腹いせに灰を酒桶に投げ込んで逃げたところ、翌朝澄んだ酒に変わった」という逸話も残されています。

酒の品質向上とともに輸送技術も発達し、馬に酒を積んで運ぶ駄送りから、水路を使っての大量輸送に変わりました。駄六川から猪名川、安治川を經由し、専用の樽廻船を使って、海を経て江戸へ運ばれたそうです。伊丹の酒は「丹釀」や「伊丹諸白」と呼ばれ、江戸の人々に愛されました。「いたみのさけけさのみたい」という回文が流行したことからも、当時の人気うかがえます。また、大飢饉や米価高騰によって「酒造半高造りと新規酒屋の一切禁止」などの法律が作られ、独占的に生産できたことが追い風になったようです。

しかし、宝暦4年(1754年)に酒造「勝手造り」が発表されて自由競争の時代になると、伊丹の酒造業は次第に衰退していきました。今津港を有し、六甲山系の宮水が発見された灘に、需要が移ってしまったのです。ピーク時は85軒あった酒造家も、現在では伊丹酒造組合に白雪・大手柄・老松・花衣・千鳥正宗・武庫泉の6銘柄を残し、市内に小西酒造と伊丹老松酒造の2社を構えるのみとなりました。



江戸時代の出荷風景を描いた絵



なぎなたの稽古風景。気のこもった掛け声が道場に響き渡ります

酒が紡いだ文化～俳諧となぎなた

清酒の人気で大きな財力を手に入れた酒造家は、全国から一流の文人墨客を招いて茶道や華道、芝居などの諸芸を楽しみました。芸事に力を入れ過ぎて家が傾いた記録が残っているほどで、酒造家の間ではひとつのステータスとなっていたようです。中でも、庶民俳諧は特に好まれ、「太くてたくましい伊丹風俳諧」として独自のスタイルを確立し、「東の芭蕉・西の鬼貫」と並び称される上島鬼貫を輩出しました。酒造家油屋の一族に生まれた鬼貫は、京都から移り住んだ俳人池田宗旦が作った文化サロン「也雲軒」で俳諧をたしなみ、伊丹風俳諧の旗手として活躍しましたが、遊戯的な伊丹風の俳諧に疑問

を抱いた後に「誠のほかに俳諧なし」の悟りを得て、鬼貫独自の俳風をもったと言われています。

町が栄えると、政治や経済だけではなく、自衛の問題が現れました。江戸時代の伊丹は公家の近衛家が治める町。武家がないため、町の治安は町衆自身で守らなければならなかったのです。そこで当時の惣宿老(※)・小西新右衛門七考(七代目)朝巴は近衛家に申し出て私設道場を創設し、剣術やなぎなたを指導しました。道場は公益財団法人 修武館として現存し、世界大会や国民体育大会の優勝者を輩出。現在では兵庫県でなぎなたに携わる人は修武館の出身と言われるほど、「なぎなたの町」として知られています。

※惣宿老…町の司法行政を司る役で、酒造家が任に当たっていました。

今も残る江戸時代の面影

JR伊丹駅から阪急伊丹駅の間には石畳が続き、伊丹酒蔵通りとして親しまれています。10分程度の道のりには酒屋や酒蔵、美術館などが立ち並び、伊丹の歴史を感じることができます。長寿蔵ブルワリーミュージアムでは江戸時代の酒造りの様子が展示され、伊丹老松酒造の店先では酒造りに使う井戸水をくむ市民の姿が目にとまります。



1716年に発行された「江戸積み銘酒名寄」。毎年刊行され、伊丹の酒が数多く記載されました



伊丹老松酒造で無料提供されている井戸水。1日200～300人の市民が水をくみに訪れます

町並みだけではなく、文化も継承されています。俳文学者としても活躍した酒造家・岡田柿衛が集めた俳諧資料を収蔵する柿衛文庫は也雲軒を受け継ぎ、鬼貫青春俳句大賞、鬼貫顕彰俳句などを開催。平成23年度の鬼貫顕彰俳句には市内の小・中学生を中心に約2万句が集まりました。鬼貫の意思を継いだのか、元気で自由な発想の句が多いそうです。また、市内の小学校では俳句などを通じて豊かな発想力を身に付ける「ことば科」の授業が行われています。

江戸時代から変わらぬ中軟水の水は、酒造りはもちろん、地ビールや生パン酢など新たな製品にも活用され、豊かな水によって栄えた文化と歴史は、今なおその面影を残し、形を変えて人々の心に根付いているのです。



JR伊丹駅～阪急伊丹駅間の地図



「かよはる秋の空なる富士の山」は上島鬼貫の代表句のひとつです(柿衛文庫蔵)

大阪市建設局 より速く、詳細な情報提供へ降雨レーダーを更新

大阪市建設局のHPにて公開している降雨情報は、雨季には60～80万件のアクセスがあるなど多くの人々が利用しています。しかし、現在の降雨レーダーは平成5年に設置されたもので、老朽化が進み、保守交換部品の調達が困難になるなど、早急な更新が求められていました。

今回、大阪市港区弁天町オーク200の屋上に新たに設置されたレーダーは、全国の自治体としては初となるマルチパラメーターレーダー。従来のレーダーよりも観測精度が飛躍的に高まるため、ゲリラ豪雨による浸水対策にも活用されます。



更新後のレドーム(内部に設置されたレーダーアンテナを保護するための覆い)



大阪市港区弁天町オーク200の屋上に設置されたレーダーアンテナ

新型レーダーの仕様

送信管	クワイストロン(水平・垂直偏波)
観測範囲	半径80km
観測面積	250mメッシュ
観測間隔	1分
雨量強度	8段階表示
配信方法	インターネット(携帯端末を含む)、FAX(登録者へ自動配信)

特徴

- ・観測した雨を行政区ごとに表示
- ・雨の強さを8段階表示とすることで強弱が分かりやすい
- ・1分間隔で移動状況を120分間の履歴再生表示。ゲリラ豪雨などに対する予防が可能になる

旧降雨レーダーとの比較

	旧型	新型
観測精度	強い雨では精度が低下	強い雨でも精度を確保
データ更新時間間隔	10分	1分
表示エリア	府域・市域	近畿圏・府域・市域・行政区
降雨強度の表示	4段階	8段階

平成24年4月からインターネット等を通じて提供される降雨情報

大阪市域の画面



行政区(此花区)の画面



道頓堀川の水質改善に向けて 建設が進む北浜逢阪貯留管(愛称:平成の太閤下水)

大阪市は、その市域面積の約10%を水面が占め、水の都と呼ばれています。大阪の繁華街の中心部を流れる道頓堀川は貴重な水辺空間であり、多くの観光客が訪れる本市を代表する河川となっています。

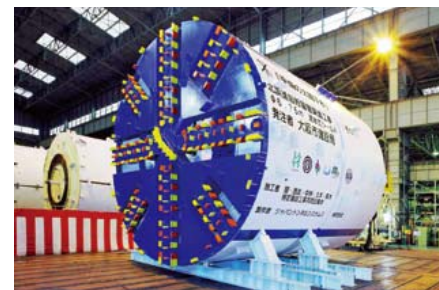
本市の下水道は処理区域の97%を汚水と雨水を同じ下水管で流す合流式下水道を採用しています。合流式下水道は低廉で短期間に整備ができるという長所がありますが、雨の強さが一定の水準を越えると、雨水とともに汚水の一部が吐口から河川等に直接放流されるという欠点があります。

道頓堀川とその上流の東横堀川には多くの吐口があり、雨天時には汚水混りの雨水がこれらの河川に流れ出しています。大阪市建設局では道頓堀川と東横堀川の水質改善のため、北浜逢阪貯留管(平成の太閤下水)の建設を進めています。この貯留管は内径6m、延長約4.8kmと大規模なもので、計画降雨(60mm/時)まで、道頓堀川・東横堀川への越流水を全量貯留(約14万m³)することができます。本貯留管は平成22年7月に天王寺区茶臼山町の天王寺動植物園内の逢阪会所より掘削を開始し、平成24年2月に北区西天満の西天満立坑に到達しました。

本貯留管の完成により、道頓堀川・東横堀川の水質改善が進むとともに、水辺景観の向上に大きく寄与することが期待されています。



北浜逢阪貯留管(内径6m、貯留容量約14万m³)



北浜逢阪貯留管の施工に用いられたシールド掘削機

シンポジウム「ゲリラ豪雨 大阪市の対策は？」を開催しました

昨年11月13日、都市技術センターは大阪府、大阪市、NPO法人下水道と水環境を考える会・水澄、関西水環境ネットの協賛のもと、大阪市下水道科学館にてシンポジウム「ゲリラ豪雨 大阪市の対策は？」を開催しました。降雨災害研究の第一人者である、京都大学の中北英一教授による特別講演「ゲリラ豪雨のメカニズムと対策」では100人を超える参加者が熱心に聞き入り、続くシンポジウムでは会場からもさまざまな意見が出るなど、活発な議論が行われました。



INCHEM TOKYO2011の「グリーン産業開発支援国際展2011」に出展しました

当センターが事務局を務める大阪市 水・環境ソリューション機構(OWESA)は、昨年11月16日～18日、日本最大級の科学・エンジニアリング関連の専門展示会INCHEM TOKYO 2011において、UNIDO(国際連合工業開発機構)および経済産業省とのタイアップで実施された「グリーン産業開発支援国際展2011」に出展しました。大阪市の上下水道、廃棄物分野で取り組んでいる3つの海外プロジェクトの紹介を中心にOWESAのPRを展開。またチュニジア、ナイジェリアからの参加者との打合せも行いました。



OWESAフォーラム2011を開催

昨年の10月19日、ハイアットリージェンシー大阪において、大阪市のビジネス・パートナーシティ(BPC)14市が一堂に会するBPCラウンドテーブルのサイドイベントとして開催。マレーシア、フィリピン、オーストラリアからの参加者による、それぞれの国の上下水道や廃棄物処理の取り組みの報告や、関西の民間企業6社によるそれぞれ有する技術の紹介が行われました。



平成23年度JICA研修(集団研修およびベトナム研修)を実施

当センターが毎年、企画・運営を行っている(独)国際協力機構(JICA)集団研修「下水道維持管理 都市排水コース」を、昨年9月5日～11月4日に実施しました。6か国11名の参加者は、約2か月間にわたって下水処理や汚泥処理、浸水対策などに関する計画、設計、施工、維持管理についての講義、実習、現場視察に取り組みました。

また、10月17日～28日にはJICA国別研修「ベトナム下水道経営コース」も開催。これは今回新たに大阪府で実施した研修で、ベトナム建設省およびハノイ、ホーチミン、ダナン各都市の下水道事業に係る職員が、下水道経営に関する知識の修得に努めました。



下水道排水設備工事責任技術者試験および更新講習などを実施

昨年の8月28日、平成23年度下水道排水設備工事責任技術者試験を実施。33市町村から312名が受験しました。また、9月11日、18日にエルおおさかにおいて、平成23年度下水道排水設備工事責任技術者更新講習を開催。2日間で624名の方が受講し、修了者には大阪府下水道協会から修了証が交付されました。



「関西の清流」を募集します

人と地球のうおいマガジン「Mer」では、関西の清流を募集中。「豊かな自然に囲まれている」、「物語が伝わっている」といった清流のほか、「みんなの力でかつての綺麗な流れになった」というものでも結構です！応募の中から選定を行い、「清流紀行」のコーナーにて紹介します。

応募方法 メール・FAX・ホームページにて
 メール: info@owesa.jp
 FAX: 06-4963-2095

都市技術センター

本書を作成するにあたって、参考にさせていただいた資料一覧

- 環境省選定「名水百選HP」
- 京都府HP
- 大阪府建設局HP
- 大阪府建設局「道頓堀水門、東横堀川水門」
- 大阪府建設局「道頓堀川水辺整備事業」
- 伊丹市市勢要覧
- いたみ酒造組合HP
- 伊丹市HP
- 第9回文化財ボランティア養成講座/バンフ「伊丹の酒造業の展開～清酒発祥地を訪ねて～」
- 伊丹「修武館」二百年の歴史をいまだに維持する話 など